

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

イノシシ・シカ 被害拡大

近年、イノシシ・シカが、急激に増加し農林業に対する被害が深刻な問題になってきました。名張近辺でも農作物の被害や畦畔掘り起し被害が深刻化しています。

昭和の初期にはシカは絶滅の危機に瀕して、プロの猟師でも、山でシカに遭遇するのは非常に珍しいことだったそうです。

「サルよりシカやイノシシのほうがかなわん。」という声をよく聞くようになりました。

イノシシ

イノシシの繁殖期は、12月～1月の発情期に始まり、4月～6月の出産で一度に4～5頭を産み繁殖能力が高く、イノシシを捕獲したよって減少させることは難しいといわれています。

本来イノシシは昼行性だが、人間を避けるために夜間中心に行動しています。非常に神経質で警戒心が強く、優れた嗅覚を持ち雑食で、市街に出没し生ゴミなども漁るとの報告もあります。

跳躍力が高く、十分な高さのない柵は跳び越えられてしまいます。生後半年の幼獣でも、65センチほどの柵を助走せずに飛び越えられます。成獣では鼻の力が強く、60センチほどの物は動かすことが出来、人間よりも俊敏で、時速約45キロほどで走ることが出来ます。

オスは生後一年ほどで群れを離れ、単独で行動

柵による防御ですが、個人単独で実施するよりも、集落単位で集落全体を囲うように設置することが効果的です。

近年、電気柵の設置が全国的に奨められていますが、いずれの柵にしても一長一短があり、特に電気柵は設置コストが高く管理にも難しい面が多々あります。イノシシは体が剛毛に覆われていて通電するのは毛の生えていない鼻先だけですので、電線の配線には十分な考慮が必要です。

管理面では雑草による短絡（ショート）に細心の注意が必要で、柵周辺の草刈りは欠かすことは出来ません。

高齡化や過疎化が進む中山間地では、防護柵の管理にも頭を悩ましているのが現状です。

シカ

明治から昭和初期までは、人口増加にもなう集落の拡大や乱獲などが原因でシカが激減して、政府が保護政策（明治28年狩猟法）を打ち出し、禁猟期を設けたり、子シカやメスシカの捕獲を禁止するなど保護に乗り出しています。

以後、法改正を繰り返して現代も鳥獣保護法として実施されています。激減したシカが何故増えだしたのでしょうか。

シカは、昭和50年頃から増え始め、平成2年頃

から平成12年頃にかけて急増しています。

まず最初に考えられる大きな要因は長期継続している保護政策にあると思います。次に天敵オオカミの絶滅。狩猟人口の減少、温暖化などが主な要因だと考えられます。

保護政策のなかでもメスシカの捕獲禁止（現在は緩和されている）はシカ増の元凶といえます。シカは、1年に1頭しか子どもを産まないため絶滅に追い込まれやすい動物ですが、毎年出産するためメスシカの数が増えれば多いほど増加率は高くなります。

明治初期では農作物を守るための狩猟は日常的に行われ捕獲した動物は人々の貴重な蛋白源でもありました。シカにとって人間は最強の天敵で、その狩猟圧力により自然形態のバランスが保たれていたのだと思われま

す。ハンターがめっきり減り、人里近くでの箱罠が増えています。これだけで適正生息数までに追い込むのは至難の業です。

また、銃猟のように人の怖さを学習させる効果もありません。

全国的にシカの数、自然環境と共存することの出来る適正生息数を遙かに超えた数になっています。因みに、自然環境と共存できる数は1～3頭と5頭といわれています。

最後の手段ですが、捕殺もやむを得ない時期が来ているように思います。適正な個体調整は、裏を返せば彼らの保護にもつながります。

文献によると、元禄13年（1700）対馬でイノシシ8万頭捕殺という記録も残っています。これを蛮行と捉えるか、これが疑問ですが、当時の農民の気持ちは十分理解することが出来ます。

イノシシ・シカは本来奥山に生息し人間界には滅多に近づかない臆病な動物で、古代から人とイノシシ・シカはお互いに「痛み分け」の形で共存してきました。

しかし、ここ数十年前から、さまざまな要因が

絡み合い人と野生動物との共存・共生が徐々に難しくなっています。

この長い共存・共生の関係を壊してきたのが人間側であることは否めな事実で、それを元に戻すのも、また人間の責任と言えるのではないのでしょうか。

山で群れに行き会おうとその情報を教え、その群れを農地に引つ張って来ることがあるので、ハナレザルには十分な注意が必要です。

3月のサルの動向 A群、周辺集落の食べ物が一般的に少なく集落への滞在日数が少なくなったように感じられます。その反面、青蓮寺湖及び比奈知湖では落ちていたドングリ等を求めて、滞在する日が多くなっています。

奈垣集落周辺で5頭程のハナレザルがおりましたが、うち2頭は捕獲され、残り3頭が周辺で住民が目撃しています。B群、約半年間、国道より北側へ移動して

サルの出没状況 名張A・B群



名張B群は日本でも比較的不広い範囲の遊動域を持つ群れだと云われています。遊動域は環境収容力と関係が深く遊動域内が食べものが獲れない檜や杉山だど遊動域を拡大したり農作物に依存していきま



ます。昨年の夏のように、分裂騒ぎを起こしたりもして昨年末頃から、1月頃まで宇陀川南側地域を拠点として活動していたB群は、最近になり北側に

知って防ごう シカの害

シカは夜行性？

昼夜を問わず活動をしています。人間活動に応じて変化し昼間は人を恐れて奥山から出てこないだけです。行動範囲は2Km程だだそうです。

群れで行動するの？

シカはオスの群れとメスの群れに分かれています。子供は母親と一緒に生活し、オスの群れに合流して行動します。

シカの産期は？

交尾期は9月下旬から11月で、妊娠期間は約253日です。産期は7月上旬から7月中旬です。メスは2歳で子供を産みます。一夫多妻ですので、メスの個体数増加がシカ急増

シカの特徴

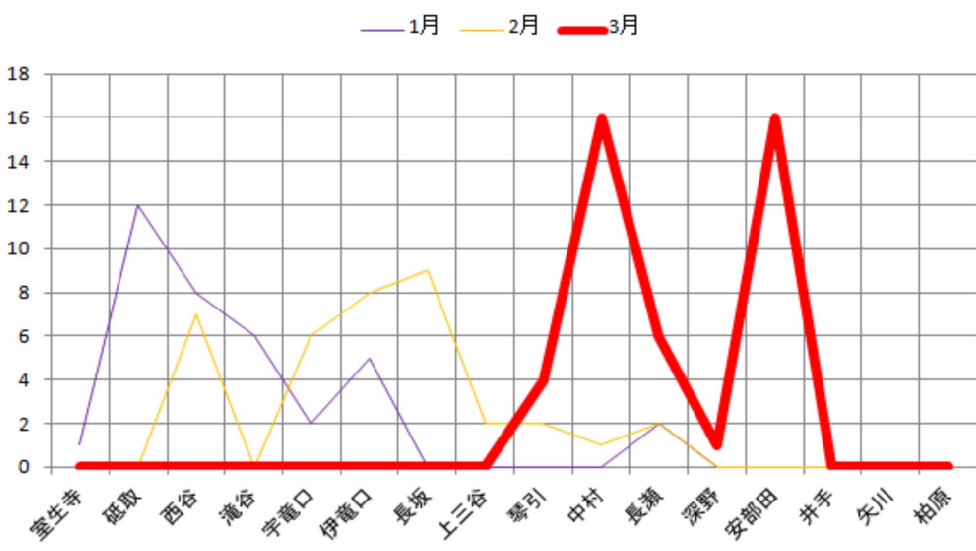
シカは臆病だが、図々しい性格です。嗅覚が発達しており匂いで危険を察知します。運動能力は高く、1.5m以上の柵でも助走なしで飛び越える能力を持っています。

柵を飛び越えるイメージが強いですが、小さい隙間でも潜り込んで侵入する柔軟さがあります。飛べない柔らかい手をとる飛べない柔らかい手をとる飛べない柔らかい手をとる飛べない柔らかい手をとる飛べない柔らかい手をとる

なにを食べているの？

シカは草食性で、この辺りではアセビ以外の植物なんでも食べます。冬場の餌は落ち葉や落葉、若草などの農作物が食害を受けます。

名張B群移動グラフ



名張A群移動グラフ

